

PC①の情報

PC①／情報深度：1

君はこの仕事を報酬目的で請けたのではない。君が外界存在と契約を結び、存在者となったのは両親の死を目撃した時だった。遊びから帰宅すると既に両親は死んでおり、犯人によって家には火が放たれていた。君は家族とその思い出が目の前で焼かれていく光景から必死に目を背けようとし、気がつくと白昼夢めいた景色に包まれながら契約を結んで存在者となっていた。暗殺の対象になっている雲野は君の両親を殺したと言われている男であり、君がいつか自分の手で殺すと誓った相手だ。これまでその男を殺す為に訓練をして、存在者としての戦闘技術も身に付けた。しかし自分1人で戦うには雲野とその組織は強大だ。どうしようかと悩んでいた時、今回の仕事が紹介された。1人で殺すのが難しくとも、協力者がいれば何とかなるだろうと考えた君はこの仕事を請けることに決めたのだった。

願い：両親の仇をとること。

PC①／情報深度：2

かつて子供だった君に人殺しの技を教えたのは、君を拾った存在者だ。両親が殺された時、そのショックで存在者として覚醒した君は酷く混乱していた。変わってしまった自分が怖くてあてもなく逃げ出した君を拾った『草壁舞花』は存在者で、君に力の扱い方を教えてくれた。彼女は人を殺して金を稼ぐ、いわゆる殺し屋だった。だが幼い君に殺し屋の仕事を手伝わせることはせず、しばらくは『草壁舞花』の代わりに家事をしながら暮らし、学校には行かなかったが大抵の勉強は彼女が教えてくれた。君にとってその存在者は家族に近い人間になった。ある日、自分の両親が雲野に殺されたのだと知った君は『草壁舞花』に頼みこみ、人を殺す技術を教えてもらうことを決める。それから『草壁舞花』は君の師匠になった。師匠は最初は教えることを渋っていたが、放っておいても君が復讐の道に進むと思ったのか、徐々に技術を教えてくれるようになる。しかし、その師匠もとある仕事の最中に帰らぬ人となった。もはや君に残されたものは、師匠から学んだ技術だけ。それを用いて目的を果たせば、師匠が自分を拾ったことにも意味が生まれるだろうと感じた。

もう1つの願い：殺し屋として仕事をする事。

PC②の情報

PC②／情報深度：1

君は暗殺対象である雲野哲が経営している消費者金融で多額の借金をしている。元々は別のところで借りた金を返すために借りたのだが、細かい契約内容を読まなかったせいで利子を返すのも一苦労するような額にまで膨れ上がってしまった。今回の仕事うまくいけば、借金返済に大きく近づくと思っていた。だが実際には仲介業者による報酬の中抜きが行われ、チームの4人で分割すればさらに報酬は減ってしまう。そこで君は今回の対象となる雲野哲がかなりの資産家であることを思い出した。どうせ殺すのだからついでに金目の物を盗み、仕事が終わった後で売り捌けば足りない報酬の埋め合わせくらいにはなるだろう、と。確かに人様の物を盗むのは良くないことだろうが、どうせ人殺しをするのだから窃盗をしたところで誤差でしかない。それよりも大切なのは誤差では済まない報酬の額なのだから。

願い：雲野哲から金銭的価値のある物品（ジョーカー）を手に入れること。

PC②／情報深度：2

君は元々は比較的真面目で、そこそこ普通にアルバイト生活をしていた気がする。だがそれも存在者になり、常識から逸脱するまでの生き方だ。存在者として覚醒した後、最初にしたことは強盗殺人だ。君は特に下調べもしないままPC①の家へ押し入ってPC①の両親を殺した。普通の一般家庭に大金などあるはずもなく、君は腹いせにその家に火を放った。思い付きで怨恨がありそうな殺し方をしてみたおかげか、殺したPC①の父親に金を貸していた雲野が代わりに容疑者となってくれ、驚くほど簡単に逃げる事ができた。真っ当にやるより、狡く生きた方がうまくやれる気がした君はそのまま外道へと落ちていった。けれど、もしも、あの時に失敗していれば思い直せたのではないかと思ってしまう自分がいる。誰でもいい。悪いことはうまくいかないだと、教えてくれ。

秘めた願い：自分の目的が達成されないこと。

PC③の情報

PC③／情報深度：1

君は誰も信用していない。仲間のような顔をしている連中に限って、何かあると我が身可愛さに他人を蹴落とすのだと君は知っている。だから今回の仕事で報酬が事前に聞いていたよりも減っていることを聞いて、報酬を割る人数を減らせばよいのだと君は考えた。危険な暗殺という仕事の最中に死人が出ることは珍しくない。報酬は個別ではなくチーム自体に支払われるのだから、割る数を減らせば個人の取り分が増えるなんてことは小学生でも分かるのだから。だが実のところ、自分が何故ここまで他人を信用しない人間なのか君自身も理由を知らない。君にはある時点より前の記憶がないのだ。思い出せるのは、酷い怪我をした状態でゴミのように倒れていたこと。それより前のことは何も思い出せないが、他人を信じようとする度に背中に残った傷跡がまるで警告のように痛む。だから君は他人を裏切ることを選ぶのだ。傷の痛みをかき消したくて。

願い：可能な限り少ない人数で報酬を受け取ること。

PC③／情報深度：2

記憶喪失だった君は PC①を見た時、自分が限界でも名の知れた殺し屋の存在者だったことを思い出す。ある日、君は雲野哲から仕事を請けた。仕事は君1人ではなく、雲野が寄越した PC④と協力して行うものだった。いつも通りの仕事をしようとする君だったが、その依頼は雲野によって仕掛けられた罠だったのだ。PC④に油断した背中を見せた瞬間、君は急所を刺され地に伏した。君は咄嗟に自らの死を偽装することを選んだ。心臓を、呼吸を止め、あたかも即死したかのように装った。君を死んだと判断した PC④が去った後、自身の彩能で顔や指紋を別のものに変え、自分という人間を殺したのだ。今、君が生きていると知る人間は誰もいない。わざわざ雲野哲や PC④に報復をするつもりもない。しかしチームの中には殺しを教えた PC①がいた。君にとって PC①だけは唯一失いたくないと思える存在だ。既に PC①の師匠だった自分は死んだとしても、守りたいと思う気持ちは今の自分にもある。

もう1つの願い：PC①を守り、助けること。

PC④の情報

PC④／情報深度：1

君は生まれた頃から道具のように生きてきた。最初は両親の道具、その次は親戚の道具だった。両親や親戚がいなくなった後に君を引き取ったのも、似たような境遇の子供を道具として扱う人間たち。ゆっくりと人間らしい感情を薄れさせてきた君が最後に自分で決めたのは外界存在との契約だった。存在者となった君が最初に見たのは自分以外の人間が息絶えた光景。噂を聞いた存在者が君を人殺しの便利な道具として拾ってから、殺すように言われた人間を殺し続けてきた。物心ついた時には自分を道具だと思ってきた君にとって、そんな生き方はむしろ楽なものだった。今回も君の持ち主に命令され、この暗殺に参加している。君は対象を何があっても殺すだろう。放たれた弾丸は、その先に何があろうと直進するだけなのだから。

願い：雲野哲を殺すこと。

PC④／情報深度：2

君を拾って殺しの仕事をさせている持ち主は、暗殺対象である雲野哲だ。また君はこの仕事と並行して、もう一つ殺しの仕事を任されている。それは暗殺チームの中にいるPC②を殺すことである。PC②が何か特別だというわけではなく、単に様々な人間からいない方がマシだと思われるから君に殺すよう命令が下されたというだけ。こうした仕事は君にとって珍しくない。以前も界限で活躍し過ぎた殺し屋を不意打ちで殺した。君にそうした殺しの仕事をさせてきた持ち主である雲野哲が、何故自身の暗殺依頼に君を派遣したのか、その真意を考えようと君は思わない。人殺しの道具である以上、余計なことを考える機能は要らないのだから。君にとっては道具であること自体が願いのカタチである。

もう1つの願い：PC②を殺すこと。

願望色の存在証明

情報カード

No.1 雲野哲の日記

書斎のデスクに雲野の日記があるのを発見した。大抵は備忘録程度の内容だったが、あるページに気になる記述を見つけた。

【先日、会員制のオークションで超越器が出品されているのを見た私は、衝動的にそれを競り落とした。オークションでは単なる年代物の宝飾品として扱われており、本当の価値に気がついているのは私だけであった。「獅子座の宝珠」と呼ばれていたブレスレットは一般人からすれば多少古いだけのアクセサリだが、存在者にとっては金塊の山より価値のある物品だ。

私が調べたところによると「獅子座の宝珠」は古代に伝説的な強さを誇った存在者が身に付けていたもので、ブレスレットにはその存在者のパワーが宿っているらしく、存在者が身に付ければ強大な力の一端を借り受けることができるというものだった。

「獅子座の宝珠」に宿る力は本物だ。本来なら複数の存在者で対抗せねば倒せないほどに成長した色喰らいを私単独で消滅させることができた。この超越器があれば私はそこの存在者と戦っても負けることはない。しかし「獅子座の宝珠」を私が持っていることが広く知られれば、それを狙う人間も増えるだろう。あくまでこれは奥の手として秘めておかねばなるまい。】

【以下ディレクター PC (+演出手助け PC) のみ閲覧可能】

何度か「獅子座の宝珠」を試したところ、この超越器による自身の強化には欠点があった。強大な力は私自身の力のバランスが崩れ、精密なコントロールができなくなると途端に私の体から抜けてしまう。「獅子座の宝珠」は無双の力を与えるだけで、無敵になれるわけではないことを忘れぬよう記しておく。

【獅子奮迅】の無効化条件：1 ターンの中に「根源」に 20 以上のダメージを与えること。

No.2 警備員の噂話

「雲野の懐刀」と呼ばれる存在を知っているか？ 彼ほどの人間になると本人の知らないところでいくつもの恨みを買っている。まあ敵対している相手もうまく使えば利益を生めるってのがあの人の考え方らしいんだが、生かしておいても損が大きいと見なした場合、その懐刀が動く。今日のパーティも彼を狙うやつを誘き出す目的で企画されたって噂もあるしな。もしかしたら「雲野の懐刀」がどこかに潜んでいるかもしれないぞ」

【以下ディレクター PC (+演出手助け PC) のみ閲覧可能】

「そういや俺、前に雲野の隣にそんな感じのやつ見たことあるんだよな。その時は懐刀がいるなんて噂は知らなかったからなんとも思わなかったけど、アイツがそうだったのか」と言いながらメモ帳に警備員が描いた似顔絵は、PC ④ とよく似ていた。

No.3 過去の放火

使用人たちのピンチを助けた君は彼らに囲まれる。使用人の 1 人が言うには、雲野は些細な失敗でも強い怒りを見せることがあるらしい。

「雲野さんって高利貸みたいな事業もやってるらしいけど、返せない債務者に対する見せしめがかなり過激だって知ってる？ 何年か前に破産寸前の会社の社長に貸した時、利子も返せなくなっちゃったのよね。そうしたら雲野さん、その社長と奥さんを殺して家ごと燃やしてしまったの。遣された子供も行方不明で、きっと雲野さんが山にでも埋めたんじゃないかって言われてるわ。そんなことがあったから、あの人からお金借りてる人はもうみんなせめて利子だけは払うようにしてるんだって。本当、さっきのミスも雲野さんの耳に入ったらクビどころじゃ済まなかったかも」

話をした使用人の女性は自分の肩を抱いて震える真似をしてみせると、同僚に呼ばれて別の仕事に取り掛かり始めた。

【以下ディレクター PC (+演出手助け PC) のみ閲覧可能】

入れ替わりで別の使用人が君に話しかけてくる。

「すみませんね。彼女、結構あいう話好きで色んな人に言いたがるんですよ。まあ私たちの雇い主が怖い人間っていうのは間違っていないので気を付けた方がいいかもしれませんが、でもさっきの話、雲野さんが殺したっていうのは間違った噂なんです。雲野さんは確かに見せしめ目的で債務者を追い詰めるらしいですが、絶対に殺したりはしないと金貸しをやっている友人から聞いたんですよ。むしろまだ利用価値のあった債務者を殺されたことに怒ってたとか。結局は噂をそのままにしておいた方が都合が良いからそのまま流させてるらしいですけどね。あっ……これ、私が話したのは内緒にしてくださいよ。余計なトラブルは嫌なので」

No.4

君が無力化した一般人が持っていた無線機から、暇そうにしている警備員たちの会話聞こえてくる。

「お前たち、『草壁』って殺し屋知ってるか？ 裏の界限じゃかなり名の知れた殺し屋なんだが、どんなに厳重な警護があっても確実に仕留める最強の殺し屋だと評判だったんだよ。まるで人間技じゃないと言われるほどで、俺は雲野も狙われてんじゃないかと思ってた。だよ、雲野と敵対してた勢力の依頼で派手にやり過ぎたせいか、雲野に目を付けられちまって罠にハマられ、今はこの世にはないらしいぜ。やったのは雲野お抱えの暗殺者とか言われてるが、つまりは雲野に邪魔だと思われたら終わりってことだよ。お前たちも雲野の機嫌を損ねないようせいぜい気を付けた方がいいぜ」

1人の警備員が一方向的に喋ると、あとはまた通常の連絡に戻ってしまった。

【以下ディレクター PC (+演出手助け PC) のみ閲覧可能】

先程とは別の警備員が、話しているのを君は聞き逃さなかった。

「草壁って、あの『草壁舞花』ですよ。僕もその殺し屋が死んだって話は何度か聞いたことがありますけど、どの人から聞いても死体をどうしたか語られないんですよ。おかしいと思いませんか？ もし雲野さんが本当に『草壁舞花』を殺したのなら、他の殺し屋に対するアピールくらいと思うんですよ。あくまでこれは僕の推測ですけど、実は『草壁舞花』は今も生きていて雲野さんを狙っているのかもしれない……」

まるで怪談話でもするかのような語り口で話した警備員は、満足したのかそれ以上は何も話さなかった。

戦場キャラクターデータ

Lv.4		『英雄憑依』 雲野 哲		表層	記録	根源
				40	40	40
No	コスト	異能	効果			
①	2	殴打	任意のキャラの1人のランダムな属性に「3D>3D」ダメージを与える。(アタック)			
②						
③	4	薙ぎ払う	全てのPCの「表層」に「4D>4D」ダメージを与える。(アタック)			
④	常時	力を溜める	このストックが [2 / 5 / 10] の時、自身のターン開始時に発動できる。「No.6」の異能のストックを [+1 / +2 / +3] する。			
⑤	3	英雄心眼	自身に与えられた攻撃のピックダイスを「-2D」する。(サポート/自身/ロール後)			
⑥	9	獅子粉碎	ランダムなキャラ1人の任意の属性に「8D>8D」ダメージを与える。(アタック)			
◎【獅子奮迅】			◎【九死一生】			
自身の開始時、自分の任意の属性1つを最大値まで回復する。既にブレイクされている属性は回復されない。ただし、?????????こと、この能力は無効化される。			自身の属性がブレイクされた時、全てのストックを「+2」する。			
			◎【獅子座の宝珠】			
			ボスエネミー「雲野哲」を撃破したPCは【ジョーカー：獅子座の宝珠】を獲得する。ただし、他のPCに撃破された場合、ジョーカーの所有権はそのPCに移動する。			

無双の剛力を、比類なき技量を、不屈の闘志を宿した。されど英雄に非ず。殺意に飢えた獣である。

Lv.1		シチュエーション1：獅子咆哮		シチュエーション解決方法
				「表層」に「15」ダメージを与えるか、このシチュエーションのアクションが行われる。
アクション	効果			
衝撃波	ボスエネミーを除く、全てのキャラクターの属性全てに「10」ダメージを与える。			
空間そのものを砕きかねないほどの咆哮だが隙は大きい。英雄に慢心はつきものだ。				